

1、 平成28年度事業運営

28年度は日中活動としての就労Bと自立訓練からなる多機能型事業所「芦屋みどり作業所」と障害者の生活を支える「芦屋みどりホーム」（共同生活援助）、そして夜間対応の「みどりホーム」（短期入所）の運営を行いました。この3事業は、障害者が地域で生活するうえでニーズに沿ったもので、今後も需要が見込まれるので、さらに充実した事業展開を図っていきたいと思います。

① 芦屋みどり作業所

地域のニーズに応えるという意味では、隣接する芦屋特別支援学校の卒業生の入所があり、卒業後の受け皿としての対応が求められました。それに付随して利用者の重度化に対する支援のあり方も考えなくてはならなくなりました。又、精神に障害のある方の入所もあり、精神に障害のある方への支援について、研修やケース会議をおこないました。

② 芦屋みどりホーム

グループホームに関しては、春日町、陽光町とも年度途中に入所があり、定員27名がほぼ満室の状態になりました。そのうち、芦屋みどりホーム（春日町）は、阪神電車沿いで駅にも近く、3名の方が食料品関係の工場に働きに行かれています。ホームのあり方の一つとして、一般企業や作業所などの就労を支えることも大切だと思って支援しました。このように、今後もグループホームへのニーズは高まると思われるので、29年度には公営住宅でのグループホーム運営を本格的に進めたいと思っています。

③ みどりホーム

28年度は隣接する芦屋特別支援学校からの短期入所利用が増え、中学部や高等部の生徒さんが、定期的に利用されるようになりました。支援学校の生徒さんが家庭から離れて生活することで、自立に繋がると考え、学校の先生や保護者との連携を図っています。支援学校の生徒さんの短期入所利用は、今後も需要が高まると思われるので、29年度は職員体制をより充実してそれらのニーズに応えていきたいと思います。

平成28年度「芦屋みどり作業所」事業報告 管理者 大澤二郎

サービスの種類 多機能型事業所 就労継続支援事業B型 定員24名
実施場所 〒659-0034 芦屋市陽光町4の60

1、サービス提供者 管理者 1名、サービス管理責任者 1名、職業指導員 2名、生活支援員 3名、栄養士 1名

2、就労支援事業 生産活動、販売、清掃作業を通じ、利用者が就労の機会を得られるように支援するとともに、音楽や図工などの文化的な活動のプログラムに取り組み、日々楽しく過ごせるように支援しました。

① 内職作業 利用者個々の能力、特性を考慮し、積極的に取り組めるような作業を提供しました。

・手作り雑巾、竹箸セット、ダイソーハント（ボルトナット製作）作業など

②販売作業 利用者の能力、特性に応じ接客、販売、納品などの業務を経験することができるように支援しました。

・販売場所 福祉センター、打出商店街、作業所前

・販売品 クッキー、ぞうきん、箸セット

・自動販売機でのジュース販売（福祉センター、作業所前）

③ 屋外清掃作業 芦屋市及び民間委託の清掃作業の支援をしました。

・市立12公園清掃作業 ・福祉センター除草清掃作業 ・市立6保育所

剪定清掃作業 ・市民活動センター清掃作業 ・個人宅剪定作業

・マンション清掃作業

④ 平成28年度年間作業収入 526万円 平均工賃（月給） 1万円

3、文化活動支援 図工（週1回 絵画や共同作品）、音楽（月2回 合唱他）などのプログラムを行いました。

4、昼食提供 栄養士によるカロリーが計算され、栄養のある食事を提供しました。 月一度の昼食会は選択メニューを取り入れました。

5、余暇活動①ソフトボール、ハイキング、忘年会、日帰り遠足（王子動物園）、

②北海道2泊3日旅行 内容 日程10月6日（木）・7日（金）・8日（土）、行き先札幌・小樽・登別温泉他、人数利用者・職員・保護者38名、費用一人約9万円 初めての飛行機旅行、温泉とごちそうで大喜びでした。

メンバー Hさん（1年目）、Wさん（1年目）、Sさん（1年目）、Kさん（1年目）
Kさん（7月まで）、Tさん（2年目）、Mさん（2年目）

担当職員： サービス管理責任者 大澤昌子
生活支援員 森下晋吉、山田知美（10月～3月）

- ・公園清掃、内職、イベント、音楽、図工、土曜開所等は就労継続支援事業B型とっしよに行いました。
- ・自立訓練のプログラムは、火曜日の午後（1時～3時15分）に行いました。
- ・4月に立てた個別支援計画書に沿い、職員全体で統一した方向性を持って支援するよう心がけました。
- ・3か月ごと個別に面接を行いモニタリングをしました。目標達成度の確認と希望や意見をお聞きしました。

その他の報告事項

- * 2名の方が2年間頑張られて3月に無事終了されました。
- * 3か月ごとのモニタリングが大変で、少しずつ遅れ気味になってしまいました。毎回写真を付け楽しんでいただけるようにしました。
- * 個々に能力、理解度の違いがあり、またプログラムの内容によって関心を持っていただけなかったりして難しいと感じることがありました。
- * なかなか登所できない利用者がおられ、9月より週に1度自宅にお迎えに行きお母さんとの連携を密にしました。その頃より少しずつ登所していただき短期入所の利用もできています。帰宅時の送迎もしています。
- * 自立訓練プログラムの幅を広げるため、職員の知識、経験をもっと深めていくことが必要であると感じています。今後、新たな内容も取り入れていく努力をしていきたいです。

◎プログラムの内容

4月	4日 親子遠足のおやつの買い物 袋詰め 新メンバーで茶話会 5日 親子ハイキング 12日 材料の買い物 調理:焼きそば ミックスジュース 15日 音楽 19日 日用品の買い物 26日 お母さんに手紙を書く。間違いがし、塗り絵、ドリル	10月	4日 インターネット(北海道を調べる)柿の皮むき 10/6,7,8日 北海道旅行 11日 買い物 ダイエー 13日 マイ茶碗づくり 18日 買物、ミックスジュース(芦特の実習生と一緒に) 21日 音楽 24日 ドリル(お金、時計、計算、)コーヒー、コーヒーゼリー 25日 ハイキング(野外昼食)
5月	10日 図書館で本を読む(芦屋図書館) 17日 ひまわりの種まき 20日 音楽 24日 野外昼食 たこ焼き(バザーに向けて)、アイスクリームパフェづくり 31日 図書館に出かける。(芦屋図書館)	11月	1日 近隣散歩(カメラを持って) 4日 18日 音楽 8日 絵画展見学 福祉センターへ 15日 買物(マルハチ、D2へ) 22日 調理 パウンドケーキ作り 25日 精道中学との交流会 29日 年賀状
6月	3日 17日 音楽 7日 日帰り遠足 王子動物園 14日 お父さんに手紙 21日 買物(マルハチ) 近隣散歩 28日 調理 スイートポテト	12月	2日 16日 音楽 6日 温泉 13日 クリスマスケーキ作り 20日 ピザ
7月	1日 セブ茶会(精道中学校) 1日 15日 音楽 5日 図書館で本を読む(西宮図書館) 12日 調理:チヂミ作り 16日 福祉バザー 19日 ドリル、点つなぎ、間違いがし、塗り絵 アイスクリームパフェ作り 23日 保健福祉フェア参加 25日 映画鑑賞「シンバット」(ルナホール) 26日 納涼会プレゼントの買い物(浜ダイエー) 27日 水泳訓練	1月	6日 20日 音楽 17日 フレンチトースト 19日 新年会 24日 クッキーづくり、ほうれん草の卵とじ 31日 クッキーづくり焼きとチヂミ
8月	2日 暑中見舞いハガキを書く 3日 水泳訓練 5日 19日 音楽 6日 精道中と交流ソフトボール大会 9日 調理 カルピスゼリー作り 納涼会 10日 水泳訓練 23日 図書館(西宮) 30日 買物(作業所のおやつ)図書館	2月	3日 24日 音楽 7日 買い物 14日 バレンタイン用ブラウニー作り 21日 図書館 28日 洗濯と干す、たたむ、ダンスにしよう、お味噌汁づくり
9月	2日 16日 音楽 6日 フルーツポンテ 13日 話し合い(9/27のプログラム企画)コーヒーフロートづくり 15日 マイ茶碗づくり 20日 ホットケーキづくり 27日 三宮へ買物(1日)	3月	3日 音楽 7日 卒業する人への色紙を書く ドリル等 14日 ホワイトデーのチョコレートづくり 17日 音楽 21日 買い物(GU)と喫茶店 28日 調理 お好み焼き 卒業お祝い

平成28年度「芦屋みどりホーム」事業報告

管理者 大澤二郎

サービスの種類 共同生活援助(グループホーム)

定員27名

実施場所 共同生活住居 ①芦屋みどりホーム 芦屋市春日町18の12 定員15名

共同生活住居 ②みどり第2ホーム 芦屋市陽光町4の60 定員12名

1、サービス実施内容

①障害のある方が地域において、共同で自立した日常生活や社会生活が営めるように、相談や日常生活上の支援を行いました。又事業の実施にあたっては、地域との結びつきを重視し、利用者が生活する市町村や他のサービス事業者と連携して、社会的自立ができるように支援をしました。

②芦屋市においては、障害者が生活する為のグループホームは、少ない状況にあり、今後保護者の高齢化が進む中で、その利用は益々高まっていくと思われます。さらに、最近の傾向として、精神に障害を持つ方達の病院から退院後の生活の場としてのニーズも増えています。このような状況を考えると、グループホームの増設は緊急の課題であり、29年度には、公営住宅を利用してのグループホームの増設を実現します。

③平成28年度は、約23名の方が2ヶ所のホームで生活をされましたが、その約半数の利用者が保護者の死亡や高齢化で土・日および盆・正月が帰省できない状況にあります。今後は、土曜・日曜、盆・正月対応に関して、職員体制をより充実して、「親なき後」の生活を支えていきたいと思えます。

④又、ホームは就労を支える場としても大切です。2ヶ所のホームから、一般就労として工場へ通う方、他の作業所へ通う精神の方、みどり作業所へ通う多くの利用者達の就労を支援しました。

2、職員配置及び職務内容

・、管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員3名、世話人9名

イ、管理者(芦屋みどり作業所と兼務)は、従業者の管理、共同生活援助の利用の申し込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うとともに、従業員に対し法令等を遵守させるために必要な指導を行いました。

ロ、サービス管理責任者は、個々の利用者に関別支援計画を作成し、その支援計画に基づいてサービス管理や評価を行いました。

ハ、生活支援員は、生活上の相談に応じ、日常生活の適切な支援を行いました。

ニ、世話人は、食事の提供や日常生活の適切な支援を行いました。

ホ、栄養士による朝食・夕食提供により食生活面での健康管理を行いました。

3、支援内容

①利用者に対する相談 ②食事提供 ③健康管理 ④余暇活動(一泊遠足、日帰り遠足など) ⑤基本的な生活習慣(入浴・排泄等)の支援 ⑥緊急時(ケガ等)の対応 ⑦職場との連絡・調整 ⑧サービス受給に関する手続き、⑨金銭管理

⑩、作業所と合同で、10月6日(木)、7日(金)、8日(土)と北海道旅行に行きました。

①実施期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

②実施場所 芦屋市陽光町4-60

③職員体制 管理者1名 生活支援員3名 栄養士1名

④実績

月	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	月計	実人数	稼働率
4	8		40	21	4		73日	12名	20%
5	8		43	21	4		76日	11名	20%
6	8		49	19	2		78日	14名	21%
7	8		43	20	4		75日	14名	22%
8	7		36	10	2		55日	10名	14%
9	8		41	16	2		67日	13名	18%
10	8		40	27	2		77日	13名	21%
11	8	2	37	15	6		68日	12名	19%
12	8	2	38	18	4		70日	13名	19%
1	8	2	40	25	6		81日	13名	21%
2	8	5	40	22	6		81日	15名	24%
3	8	4	52	20	8		92日	14名	24%

⑤総括

平成28年度の利用実績からみると、利用人数、稼働率ともに、少しずつではあるが増加している。要因としては、現在、利用している方に利用日数を増やしていただいたこと。また、芦屋特別支援学校在学生の利用や他の作業所や事業所を利用されている方の利用が少しずつ増えており、みどり作業所の利用者以外の方の利用が増えてきたので、このような結果になったと考えられる。利用につながる経緯については、利用者家族等からの問い合わせも若干あったが、相談支援事業所を通しての問い合わせ、利用というケースも増えてきている。そのような状況を踏まえ、新規利用者の獲得には相談支援事業所への空床情報の提供が必要である。

支援の面では重度な利用者が若干増加傾向にあり、今後も増加が想定されるため、職員が専門性の高い支援技術を取得できるような職場環境が必要である。